

# いのちと地域を守る

## 被災地の経験学び実践

### 「先進例まねて積み重ねを」

高知県安芸市伊尾木地区で行われた夜の避難訓練の翌29日、参加者ら15人が市間避難センターで訓練を振り返った。地元防災センターで訓練を振り返った。地元防災センターで訓練を振り返った。地元防災センターで訓練を振り返った。

## 内陸部の支援に期待 / 激震への対応に不安



企画した安岡豊さん(54)が「子どもたちを守るため被災地経験と取り組みをまねて始めた」と明かすと、「うちの地区でも試したい」「まず一回実施したい」と意欲的な反応が広がった。

熊本地震で焦点となった揺れへの対策も話題になり、安岡さんは「東日本大震災の津波と熊本地震の激震の両方の要素を持つのが南海トラフ巨大地震。強い揺れは未経験、どう対処すればいいのかわからない」と率直に語った。

熊本地震で焦点となった揺れへの対策も話題になり、安岡さんは「東日本大震災の津波と熊本地震の激震の両方の要素を持つのが南海トラフ巨大地震。強い揺れは未経験、どう対処すればいいのかわからない」と率直に語った。

熊本地震で焦点となった揺れへの対策も話題になり、安岡さんは「東日本大震災の津波と熊本地震の激震の両方の要素を持つのが南海トラフ巨大地震。強い揺れは未経験、どう対処すればいいのかわからない」と率直に語った。

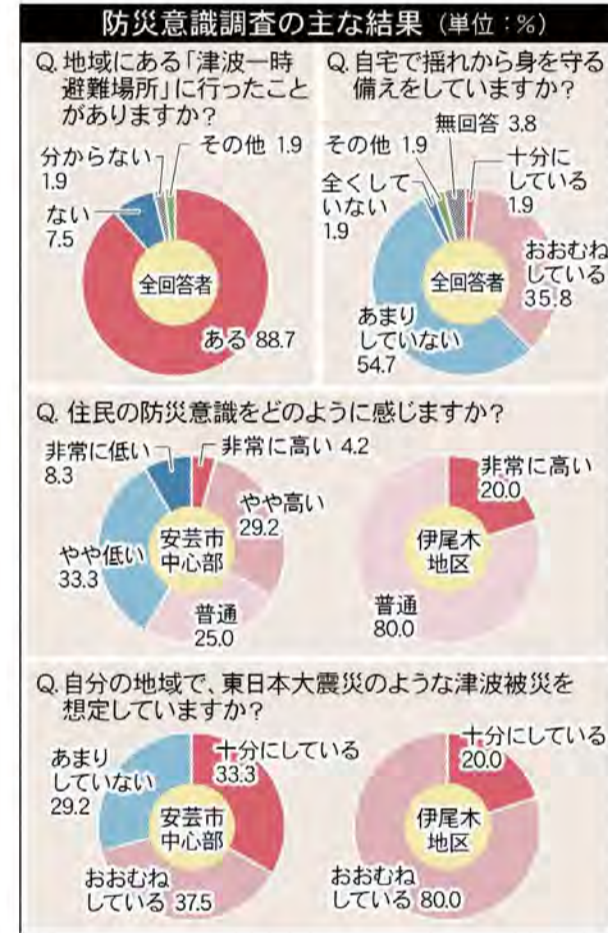
## 住民意識に地域差

### 市全体底上げが必要

河北新報社と高知新聞社は高知県安芸市での「むすび塾」開催に合わせ、市内の自主防災組織リーダーらを対象にした防災意識調査を実施した。地元津波一時避難場所に行ったことがある」との回答が9割近くを占めた。一方、住民の防災意識をどう評価するかは地区によって高低差がみられ、市全体で防災意識を底上げする必要性が示された。

### 自主防災組織リーダーに調査

調査は全問で、主な結果はグラフの通り。地震の結果はグラフの通り。地震の結果はグラフの通り。地震の結果はグラフの通り。



の語り合ひでも焦点の一つ。安芸中央自主防災会会長の松本健さん(58)は「おぼつかないうちは確かにある。意識を高める機会を設けてい



祖父を亡くした 東北福祉大1年 志野ほのかさん(18) 石巻市



両親を失った 「関上復興だより」編集長 格井直光さん(59) 仙台市太白区



被災地ガイドを務める 元田久美子さん(60) 宮古市田老



熊本地震を経験した 山岡緑さん(42) 熊本県西原村(安芸市出身)

### 想定裏切るのが災害

東松島市野蒜で生まれ育ちました。震災時は野蒜小6年生。両親は共働きで、学校から帰るといつもおじいさんがいました。地震後、近所の人がおじいさまに避難を呼び掛けると、ためらったそうです。私の帰りを待たせてくれたのは、再会が1週間後、ひつぎの中でした。事前に「私は学校で逃げるから、おじいさんも自分で逃げて」と確信していました。おじいさまは「ここなら大丈夫」という思い込みは危険です。

### 自分の命自分で守れ

東日本大震災の津波で、名取市関上の自宅に同居していた両親を失いました。震災後、住居を失った。震災後、住居を失った。震災後、住居を失った。震災後、住居を失った。

### 防潮堤 過信いけない

田老地区には東日本大震災を乗り越えた。防潮堤を過信してはいけない。防潮堤を過信してはいけない。防潮堤を過信してはいけない。

### ガソリンは満タンに

熊本地震で熊本県西原村の自宅が半壊しました。本震が起きた。熊本地震で熊本県西原村の自宅が半壊しました。本震が起きた。

### 振り返って 「伊尾木」に学ぼう

東日本大震災の経験と教訓を伝え、南海トラフ巨大地震の対策に生かしてもらおう。状況に応じて避難行動を見直している点も特徴的だった。状況に応じて避難行動を見直している点も特徴的だった。

東日本大震災の体験を振り返り、専門家と共に防災の教訓や避難の課題を語り合ってみませんか。町内会や学校、職場など10人前後の小さな集まりが対象です。開催費用は無料。随時、開催希望を受け付けています。連絡先は河北新報社防災・教育室022(211)1591。次回のむすび塾は21日、東松島市で開きます。